

## 「今後10年の活動方針」を踏まえた平成26年度下期以降の活動計画

### 【平成26年度下期以降の活動計画の提示にあたって】

第10回全体会議で「過去10年を振り返っての今後10年の活動方針」が承認されました。そこでは今後10年の活動の柱として以下の4つを挙げました。

- ・ 第1の柱:「安全文化醸成に資する活動」
- ・ 第2の柱:「技術士の認知度向上と技術士数増に向けた活動」
- ・ 第3の柱:「部会員の技術士活動の支援」
- ・ 第4の柱:「広報活動」

ここに至った議論を私なりに一言でまとめるならば、「今一度、自分(たち)自身の足元を固める活動を着実にやろう」ということとなります。

技術士の「制度的活用」は、上記活動の延長線上に位置づけられるものと理解しました。また、「制度的活用」と言ってもそれが最終目標というわけではなく、最終的に目指すべき状態は、技術士が社会で生き生きと活躍することにより原子力界全体の健全化と社会からの信頼回復に貢献することだと思います。

そのために、「専門家」としての、また「人」としての「技術士」の在るべき姿を一人ひとりが明確に自覚するとともに、「技術士＝信頼される技術者」ということを社会に定着させることが必要です。

過去10年の活動を踏まえ、我々技術士が胸を張って社会に誇れる特長は「組織の壁を越えて対等な立場で議論が出来る」ということではないでしょうか。そしてこれは現在の原子力界にあって最も必要なことだと思います。

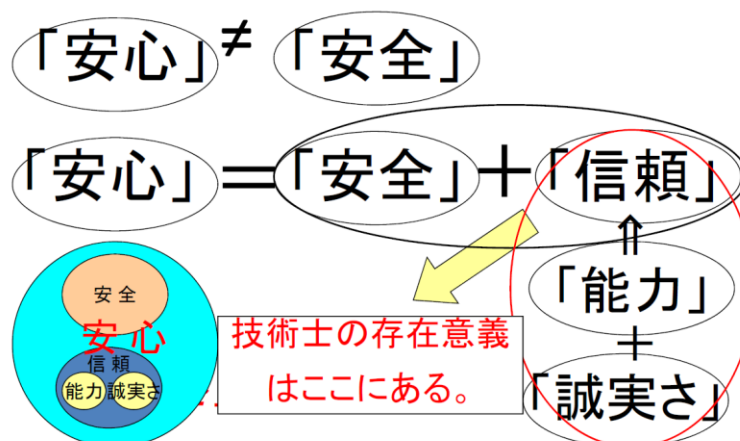
このような我われの特長を最大限に活かして「今後10年の活動方針」が示した将来像を実現させるための第一歩を踏み出しましょう。

原子力・放射線部会  
部会長 桑江 良明

\*\*\*\*\*

2010.9 第37回技術士全国大会 第7回技術者倫理研究事例発表大会 で発表

### 5.4 「安全・安心」と技術士



## 【将来像達成に向けた今年度下期活動の位置づけ】

まずは、「我々技術士も、決して十分な知識及び倫理観を有しているわけではない」という現実を謙虚に受け止めることが必要です。その上で、今年度下期は、将来像をきちんと見据えながら、自分たち自身の資質向上から始めて、将来像達成に向けて「計画的に種を蒔く」期間と位置付けます。

## 【4つの活動の柱における新規の活動項目（現状活動の延長以外）】（案）

### I. 3.11事故の反省・教訓を風化させない働きかけ、安全文化醸成に資する活動

1. 原子力・放射線部門の技術士として、安全文化と技術者倫理を学び直す取り組み  
まずは安全文化に関する我々自身の理解促進から始めます。その結果を外部に発信するとともに、所属組織、原子力界全体へと展開するための準備活動を行います。
2. 部会員の福島支援活動の経験から、住民目線のリスクコミュニケーションを考える  
これまでの部会員の福島支援活動を総括するとともに、他機関や個人活動等の情報を収集して取り組みについて分析し、技術士としての住民目線のリスクコミュニケーションの在り方を考え、発信します。
3. 1F事故事象の理解から収束への道筋の調査(仮題)  
東京電力福島第一原子力発電所の事故事象の理解と、収束に向けた道筋及びその課題等に関し、技術士として一般向け解説を行うとともに、技術士会として現地調査を実現し、その成果をとりまとめ、発信します。

### II. 認知度向上、技術士増（各機関の技術士増加策の調査、大学での技術士紹介等）

4. 各機関の受験者増の取り組みの具体事例の紹介  
企業または企業内技術士会等による組織的な受験者支援を行っている具体事例を収集し発信し、各組織における技術士数増加策に繋げてもらう情報を提供します。
5. 原子力関連学部学科・大学院への技術士制度説明会の実施  
これまでの特定企業及びOBによる学校訪問に加え、特に原子力関連学部学科・大学院への技術士1次試験受験者数増加を目的に、組織的な説明会を実施します。
6. 原子力学会の小中高教科書におけるエネルギー・放射線関連記載に関する調査協力の紹介  
エネルギー関連教育の現状認識を共有するために、原子力学会教育委員会が実施している小中高教科書におけるエネルギー・放射線関連記載調査への当部会員のボランティア内容と成果の紹介を行います。

### III. 部会員の技術士活動の支援

7. 原子力・放射線関連の時事問題の解説と、説明のための指標等の作成  
リスクコミュニケーション活動の支援のために、原子力・放射線関連の時事問題を調査抽出し、一般向け解説を行うとともに、技術士の講演、執筆活動等のための指標(説明指針)と、補助資料の編纂を目指します。

### IV. 広報

8. 地域本部のWEB中継を利用した関東地区と他地域の技術士との連携  
関東地区以外の部会員との連携を図るために、地域本部のweb中継を利用した共同行事を実施します。まずは、近畿本部を介した関西地区(13%)との連携を、技術士のタベの中継から施行します。

## 【実施時期(詳細計画の役員会承認と実活動の開始)】

H26/10~H27/3	: (検討) 1. 2. (4~6)	(開始) 1. 2. (試行) 8
H27/ 4~H27/9	: (検討) 3. (4~6) 7. 8.	(段階的な開始) 4. 5. 6
H27/10~H28/3	: (検討)	(開始) 3. 7. 8.